

授業レポート CLASS REPORT

楽しくて 力のつく授業 [1]

— 評価計画とテスト —

二宮正男 Ninomiya Masao (東京都新宿区立西戸山中学校)

1. はじめに

「教えたことを評価する。教えていないことは評価しない。」この当たり前のことが行われていないことがある。例えば、リスニングのテストを実施するにあたって、どれだけの指導をしてからテストしているだろうか。また読解力をテストするのにどれだけの読解の攻略法を生徒に教えているだろうか。

本校では、「指導と評価」について文部科学省のフロンティア校として、また、昨年度は東京都の授業改善校として取り組んできた。その研究を踏まえて、指導と評価の在り方について実践報告したい。

わせて、何をテストして評価するかも生徒に示しておくことが大切である〈資料2〉。そして、それぞれのテストごとに評価基準を生徒に示してからテストを実施していく。

例えば、教科書の DO IT - TALK の対話文のスキットを【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】の観点で評価する際の評価基準 (A, B, C) を次のようにあらかじめ生徒に提示して、生徒が基準に到達したかどうかを自分自身で判断できるようにしている。

- A: 同じテーマで独自のスキットを創作し演じる
- B: 対話文の文章を入れ替えたり加えて演じる
- C: 教科書の対話文をそのまま演じる

2. 指導と評価

本校では、年度当初に「全教科の年間指導計画」を生徒と保護者に提示している。このことは授業を受ける生徒にとって大切なだけでなく、教師にとっても計画的に授業を進めていく上でとても重要なことである。

また、学期の最初にはその学期の評価基準を授業の中で提示して説明している〈資料1〉。それとあ

学期の終わりには、生徒に「授業アンケート」をとっている。それをまとめて授業改善に活かして「確かな学力の検証」を行っている。そして保護者にも全教科において授業改善について説明している。

3. 評価計画と指導案

(1) 3年間の到達目標から1時間の評価計画まで

評価計画は次のような順番で立てている。

〈資料1〉2年生1学期の評価規準（英語科）

①年間評価計画

観点	各観点の主な内容	主な評価法	評定における各観点の割合
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	英語に親しみ、英語を使って積極的にコミュニケーションを図っている。 ・間違いを恐れずに自分の考えなどを話している。【積極性】 ・ペアワークやグループワークなどの活動に積極的に取り組んでいる。【積極性】 ・さまざまな工夫をすることでコミュニケーションを続けている。【継続性】	Show&Tell スキット ALTとインタビュー	25%
表現の能力	英語を使って、自分の考えや気持ちなどを話したり、書いたりして表現する。 ・本文を正しく／適切に音読することができる。【正確さ】【適切さ】 ・話そうとすることを、先生 (ALT や JTE) や友だちに正確に伝えることができる。【正確さ】 ・先生 (ALT や JTE) や友だちに聞かれたことに対して適切に応答することができる。【適切さ】 ・教科書で学んだ基本文を使って、自分の考えや気持ちなどを正確に書くことができる。【正確さ】	音読 スピーチ ALTとインタビュー 定期テスト (英作文)	25%
理解の能力	英語を聞いたり、読んだりして、話し手や書き手の考えなどを理解する。 ・英語情報の大切な部分を聞き取ったり、読み取ることができる。【適切さ】 ・質問や依頼など、または伝言や手紙など、英語の指示に対して適切に応じることができる。【適切さ】	リスニングテスト 定期テスト (読解力)	25%
言語や文化についての知識・理解	英語の学習を通して、言葉や文化などを理解し、それに関する知識を身につけている。 ・授業で学習した単語や語句や文の意味を正しく理解している。【言語】 ・授業で学習した言語の運用 (文型や文法事項) についての知識を身につけている。【言語】 ・場面や状況に相応しい表現を知っている。【言語】	小テスト (単元テスト) 定期テスト	25%

ままテストをやることになってしまうので、注意が必要である。

〈資料2〉の通り、今年度の2年生には1学期の授業中に、ALTが作成した聞き取りテストをかなりの回数実施したので、期末考査では実施しなかった。また、私はペーパーテストでは【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】の測定はせず、授業中にコミュニケーション活動の場面を設定して評価している。

(2) 【表現の能力】の指導と評価

【表現の能力】の指導と評価について具体例をあげて説明しよう。【表現の能力】には「話すことによる表現の能力」と「読むことによる表現の能力」と「書くことによる表現の能力」の3つの内容のまとまりがある。2年生1学期に【表現の能力】の評価を出すのに、この3つの内容のまとまり全てにテストを実施して評価を出した(〈資料2〉参照)。

「話すことによる表現の能力」を測定するのにスピーチを1回、ALTとのインタビューテストを1回実施した。2年生になり、新しい友だちに自分のことを過去形も使って紹介するスピーチをテストした。練習のときには1年生のときのスピーチのビデオや、モデルとして前年の2年生が行った自己紹介のビデオを見せた。また、インタビューテストは【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】を測定するテストとしても利用することがあるが、今回はALTの質問に対して適切に回答する能力を測る【表現の能力】のテストとして行った。

「読むことによる表現の能力」を測定するのに、音読テストをそれぞれ単元が終わるごとに実施している。たかが音読と思われがちだが、音読は英語の基本である。全員の生徒が「正確」で「適切」な音読ができるように丁寧に練習している。本校は英語科と数学科は習熟度別少人数授業を取り入れているので、それを最大限に活用して個に応じた音読練習を行っている。

「書くことによる表現の能力」の測定は、期末テスト(ペーパーテスト)の中で行った。「正確さ」をテストするために日記を書かせ、「適切さ」をテストするために手紙の返事を書かせた。普段の書くことの練習は、習熟度別クラスの発展コースでは毎

時間、挨拶の後日記を即興で書かせて添削する指導を行っている。基本コースでは毎時間、「帯の活動」としてディクテーションを行っている。どちらのコースも少人数であることを利用して、丁寧に生徒の書いた英文の添削を行っている。

(3) 100点満点と平均点

また評価の方法が変わってから観点別に成績を処理するので、100点満点のテストを作成する必要がなくなった。このことはすごく大事なことである。また平均点にもこだわらなくてもいいことを生徒にも徹底していきたい。

〈資料5〉に、2年生1学期のテストと成績のつけ方を示した。定期テストは、【イ：表現の能力】が30点、【ウ：理解の能力】が14点、【エ：言語や文化についての知識・理解】が17点で作られている。それぞれの観点ごとの達成率でABCの評価を出している。決して61点満点ということではない。また1学期全体をみると、4つの観点の比率は全て同じく25%にしてある。

5. おわりに

どの力をどのように評価するかが整理されていないと、いくら楽しい授業をやっても、生徒は「自分にどんな力がついて、どうやって成績がつけられているのか」がわからないまま通知表をもらうことになる。学期の最初に、〈資料2〉や〈資料3〉の全体構成が教師自身や生徒に明確になっていることが、評価の大切なポイントだと考えている。

〈資料5〉2年生1学期のテストにおける4観点の割合

	ア	イ	ウ	エ
定期テスト1回	61点	30点	14点	17点
(英作文テスト)	(30)	(30)		
(読解力テスト)	(14)		(14)	
(文型語順テスト)	(17)			(17)
Show&Tell 1回	15点	15点		
スキット1回	15点	15点		
インタビュー1回	25点	25点		
音読3回	15点		15点	
スピーチ1回	5点		5点	
インタビュー1回	5点		5点	
リスニングテスト4回	40点			40点
単元テスト2回	37点			37点
合計 218点	55点	55点	54点	54点
各観点の比率	25.2%	25.2%	24.8%	24.8%
評価から仮評定のための 重み付け後の各観点の比率	25%	25%	25%	25%

②学期の評価計画

③単元の評価計画

④本時（1時間）の評価計画

中学卒業時にどんな力を身につけさせたいかを考え、全体の大きな計画を立ててから、1単元、さらには1時間ごとの計画を立てている。その際には、1年間・学期の中で4つの観点をどのような場面で測定して評価するかを計画するようにしている。

(2) 具体的な指導案の書き方

多くの指導案には、単元の指導計画は書いてあっても、単元の評価について書かれていないことが多い。

例えば、1年生の三人称単数形を扱う単元を指導するとき、指導案は次のような順番に書いている。

①単元名

②単元の目標

③単元の評価規準（資料3）

④「指導計画（配当時間）」

ところが③の「単元の評価規準」が省かれていたり、④で「各時間ごとの評価計画」が示されていないことが多い。評価方法について、授業内でテストするのか、定期考査でテストするのかを明記することは重要である。

〈資料4〉を見ていただきたい。例えば、5時間目のセクション3の授業内で行うALTとのインタビューテストは【ウ：理解の能力】の「正確さ①」

〈資料2〉2年生1学期の評価計画

単元	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1	Show&Tell (話すことの言語活動への取り組み)	スピーチ（正確な発話） 音読テスト（正確な音読）	聞き取りテスト（適切な聞き取り）	単元テスト（言語）
2	インタビューテスト (話すことの言語活動への取り組み)	音読テスト（正確な音読）	聞き取りテスト（適切な聞き取り）	
3	スキット (話すことの言語活動への取り組み)	音読テスト（正確な音読） インタビューテスト（適切な発話）	聞き取りテスト（適切な聞き取り）	単元テスト（言語）
4	スキット（言語活動への取り組み） →期末後実施	音読テスト（正確な音読） →期末後実施	聞き取りテスト（適切な聞き取り）	単元テスト（言語） →期末後実施
期末		英作問題（正確な筆記）（適切な筆記）	長文読解問題（適切な読み取り）	文法問題（言語）

〈資料3〉単元の評価規準

<p>A：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 【言語活動への取り組み】①間違いを恐れず積極的に三人称単数形を含む英文を使って友だちや家族の説明をしようとしている。</p>
<p>I：表現の能力 【正確さ】①三人称単数形を用いて、正しく話したり書いたりできる。 【適切さ】②内容が相手に伝わるように、話したり書いたりできる。</p>
<p>U：理解の能力 【正確さ】①三人称単数形を含む内容を正しく理解している。 【適切さ】②三人称単数形を含む内容の必要な部分をとらえることができる。</p>
<p>E：言語や文化についての知識・理解 【言語について】①三人称単数形の用法を身につけている。</p>

を測定し、評価して成績に反映することを表している。また、教科書の3つのセクションが終わった後、7時間目には【I：表現の能力】の「正確さ①」を測定・評価して成績に入れる Show&Tell のテストを実施する。なお、表に評価の項目を書くときは、成績に反映させる評価を A (academic evaluation) としている。また、それとは区別して、成績にはつけないが、生徒のやる気を引き出し授業を円滑に進めるための形成評価は F (formative evaluation) とし、その場に応じて励ましやアドバイスを与えている。

4. 観点別絶対評価におけるテスト

(1) 定期テストだけがテストではない

学期ごとに、4観点別を実施するテストを整理し、だいたい1つの観点到に4～5のテストを実施している。それ以上計画すると、十分な指導ができない

〈資料4〉単元の指導計画と評価計画

配当時数	\$	指導内容	評価
1	1	三単現肯定文の導入／教科書本文の内容理解	Fアの①〈観察〉 Aイの①〈音読テスト〉
2		三単現疑問文の導入／教科書本文の内容理解	Fアの①〈観察〉
3	2	三単現否定文の導入／教科書本文の内容理解	Aウの①〈ALTとのインタビューテスト〉
4		三単現の復習／友だち紹介の Show&Tell 練習	Fアの①〈観察〉 Fイの①〈観察〉 Fイの②〈観察〉
5	3	まとめ／友だち紹介の Show&Tell テスト	Aイの①〈Show&Tell〉
本時 6		三単現（肯定文、疑問文、否定文）	Aエの①〈単元テスト〉 Aイの①〈期末テスト〉 Aウの①②〈期末テスト〉 Aエの①〈期末テスト〉
7			
単元テスト 期末テスト			